



なぜ今、製造業に 部門間連携が必要なのか

HTA コンサルティング 島崎 浩一

“グレーゾーン業務”を排除し 各部門の業務遂行力を強める

図1に、IMD(国際経営開発研究所)が毎年出している「世界競争力年鑑」による日本の競争力の世界順位(64カ国中)を示す。

2021年の日本の総合的な世界競争力は、前年よりも若干改善したものの依然として31位と低迷している。「総合」の指標は、「経済状況」「政府効率性」「ビジネス効率性」「インフラ」という4つの指標から成り立っており、特に「ビジネス効率性(48位)」が足を引っ張っていることがわかる。こ

図1 IMD調査による日本の競争力の世界順位(64カ国中)

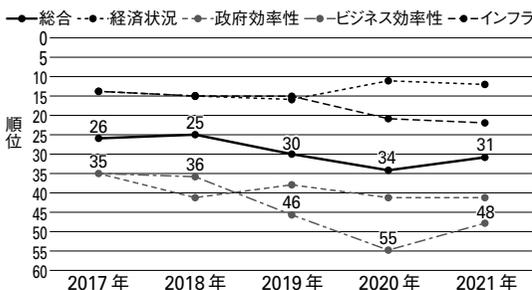
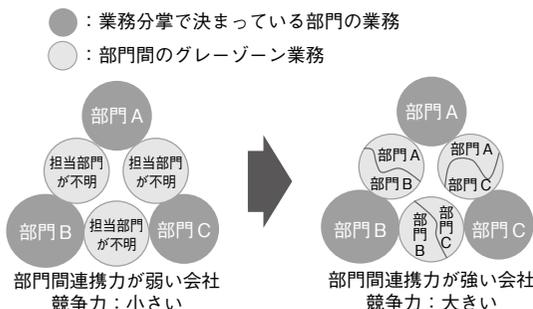


図2 グレーゾーン業務の担当業務明確化



のビジネス効率性を高める重要な手段として「部門間連携力」の強化が挙げられる。

図2左で示しているように、企業は組織内の各部門が果たすべき責任を決めた「業務分掌」を定めているが、どちらの部門が担当すべきか不明瞭なグレーゾーン業務が存在する。このグレーゾーン業務を図2右のように担当を明確化することが必要で、その手段として部門間でコミュニケーションを密にして連携を図ることが求められる。

図3は部門の業務遂行力の大きさと方向を示したもので、会社が求める事業の方向性を全部門が理解したうえで、各部門の業務遂行力を大きくすることで、会社全体の総合力、すなわち競争力が高められることを示している。このように各部門が他部門の行う業務の方向性・目的を意識しながら、自部門の業務遂行力を強化する活動は、部門間連携力の強化に他ならない。

すなわち、会社全体の競争力を高めるためには、部門間連携を推し進めることによって部門間のグレーゾーン業務を排除し、各部門の事業の方向性を一致させ、各部門の業務遂行力を大きくすることが求められる。

図3 部門の業務遂行力の大きさと方向

